

中学校国語科における

主体的な学びのための単元構想とグループ学習

「生徒の学力につながる言語力をもっと向上させたい」「生徒がもっと理解できるような授業をしたい」「生徒の学習への意欲をもっと高めたい」、指導者であれば、当然そのような思いをもたれているのではないかと思います。

生徒の学力が向上し、学習への意欲が高まるためには、生徒自身が学習に対して「受け身」ではなく、「主体的に学ぶ」ようになることが必要です。では、生徒の学びは、どのようにしたら主体的なものになるのでしょうか。

その方法の一つとして、「指導者が明確な見通しをもち、それを生徒にもわかる形で示すこと」が大切であると考えます。つまり、「学んでいる生徒が、“これから何をどのようにして学び、どのような力が身に付くのか”を見通すことができること」が、主体的な学びのための一つのキとなるのではないかと思います。

それが今回の「単元構想」（＝従来の「教材」から「単元」という枠での見通しを練ること）です。併せて、それを支える主体的な学びを育てる「グループ学習」の進め方も掲載しています。

指導者が見通しをもち、生徒自身が主体的に学ぶことができる姿をめざして、各校の実情に合わせてお役立ていただければ嬉しく思います。

生徒の主体的な学びと単元構想

生徒が主体的に学ぶ姿

国語科において「主体的に学ぶ」ことができる姿を、次のように考えることができます。

○課題の解決に向けてテキストを活用することができる姿

○テキストから考えた内容を的確に表現することができる姿

○目の前のテキストに対して「何のために読むのか」と考えて読み進めることができる姿

生徒がこのように学ぶためには、指導者が単元の構想を練ることが重要なポイントとなります。

「単元」というまとまりでとらえること

単元の学習では、ねらいが明確に設定されています。例えば、「真実を語る」という単元では「事実をとらえ、正確に伝える」というねらいが設定されています。そして、そのねらいに沿った複数の教材が選ばれています。単元のねらいを達成するために、課題を追究していく過程でこうした教材に出会い、考えることが大切です。そうすることで、テキストについて、とらえ方や考え方を比較することとなり、多面的なもの見方が育てられます。このことは、思考の深まりや拡がりを生み、常に自分の考えをもって考えることにつながります。これが、「単元」のねらいを見据えて学習を進めることにつながります。

「単元構想を練る」とは

「単元構想を練る」とは、「単元」のねらいに向けて、生徒にどのような力を付けたいのか、どのような学習活動を行うのがよいかということ構想し、練ることです。単元目標の下に、「その単元で何を指導し、生徒にどのような力を付けるのか」「そのためには、単元に配列された教材の学習をどう展開し、まとめるのか」といった、指導の展開の構想を練り、単元計画を明らかにすることが大切です。

単元構想を練る効果…①学習過程を明確にすることで、生徒の学びの意欲が高まる。

単元構想を練ることによって、指導者は、学習過程を生徒に明確に伝えることができます。生徒は、「自分たちがこの単元で、どのような学習をし、それによってどのような力を付けることができるのか」という学習の見通しをもつことができ、そのことが生徒の学びの意欲の高まりを生みます。学習する過程を意識した上で学びの意欲が向上することで、生徒はよりよい学習方法を学び、それを生かして主体的に学ぶようになることが期待できます。

単元構想を練る効果…②「何ができるようになればよいのか」が生徒にとって明確になる。

単元構想を練る段階で、指導者は、「生徒の身に付けたい力」を考え、そのために効果的な「言語活動」を計画します。提示された言語活動の内容から、生徒は、「その言語活動を通して何ができるようになればよいのか」ということを明確に意識しながら学習を進めることができます。このことは、生徒自身がはっきりと学ぶ目的をもち、学習内容を確実に身に付けるために主体的に学ぶことにつながります。

単元構想によって明確にするもの

①単元目標＝生徒の身に付けたい力

②中心となる指導事項とその達成につながる言語活動

③単元を通じた学習の流れ（プロセス、学習内容）



ではさっそく単元構想を練ってみましょう！手順は次のページからです！

主体的に学ぶ生徒を育成するために単元構想を練る



単元構想を練る手順

(具体的な姿をイメージし、設定する)

①単元目標＝生徒の身に付けたい力

- この単元の学習を通して、生徒にどのような力を付けたいのかを明らかにする。
- 各時間の「評価規準」…各時間に身に付けたい力は何かを明らかにする。

設定方法

- 学習指導要領から重点化する指導事項を選ぶ。
- 単元に合わせた具体的な文言に直す。
- 必要であれば、生徒にわかりやすい文言に直して提示する。

評価規準

②重点化する指導事項と、その達成につながる言語活動

- 単元で設定されている領域→重点化する指導事項を選ぶ。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」における、言語活動を通じた指導事項を選ぶ。
- 学習指導要領の言語活動例→表現様式などを考える。

言語活動

③単元を通じた学習の流れ

- 単元の入り口…見通しをもつようにする。
- 単元を通じた学習内容を考える。
- 言語活動や表現様式の効果的な活用法を考える。
- 単元の出口…成果物、生徒の姿をイメージする。

プロセス (学習過程) 学習内容

指導者の単元構想＝見通しをもった指導

単元構想表の例 (第1学年)

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
プロセスⅢ 調べたことをレポートにまとめる。					プロセスⅡ 説明文の構成を理解し、レポートに生かす。語彙を豊かにする。					プロセスⅠ 見通しをもつ。					
P136～「調べたことを伝えようーレポートにまとめるー」					P142, P240「漢字5」		P141, P197～「文法2」		教科書P128～「未来をひらく微生物」						
・レポートの全体交流をする。	・「調査の内容」「考察」「参 考資料」を清書し、班で発 表し合う。	・「動機・目的」「方法」を清 書し、「内容」「考察」を下 書きする。	・「調査の動機・目的」「調査 の方法」を下書きする。	・課題を決め情報を集める。 ・マッピングする	・目的にあった国語辞典と漢 和辞典の活用の仕方を理 解する。	・辞書の利用を習慣化させ、 語彙を広げる。	・文の成分について理解す る。(主述、修飾・被修飾、 接続語、独立語)	・文の組み立てについて理解 する。(連文節、並立、補 助)	・結論部分から筆者の思いを 読み取り、自分の意見と もにまとめる。	・本文2をレポート形式にま とめる。	・本文1をレポート形式にま とめる。	・学習課題を考える。 ・段落に見出しをつける。	・身に付けたい力を考える。 ・「未来に…」を通読する。	・教科書の単元5に見通しな がら学習計画を立てる。 ・レポート課題を考え始める。 ・「ワークシート」	学習内容
・相手に伝わる発表をしてい る。(評価シート)	・調べたことと自分の意見を 書き分けたり、構成を工夫 したりするなど、相手意識 をもってまとめている。(ノ ート)	・目次と「調査の動機・目的」 「調査の方法」について情 報を取捨選択しながら書い ている。(ノート)	・適切な検索方法により必要 な資料から情報を収集して いる。(ノート)	・多様な語句や語彙の意味・ 用法に関心をもち、国語辞 典や漢和辞典を活用して調 べている。(ノート)	・主述、修飾、被修飾、接続語、 独立語の設問に50～80% 答えることができる。(プリント)	・連文節、並立、補助の設問 に50～80%答えること ができる。(プリント)	・筆者の言葉を用いて結論部 分をまとめ、自分の意見を 書いている。(ノート)	・レポートの構成に従って、 本文2の内容を短くまとめ ている。(ノート)	・各段落に見出しをつけ、学 習課題を考えている。(ノ ート)	・レポートの構成に従って、 本文1の内容を短くまとめ ている。(ノート)	・身に付けたい力をイメージ し、書き込んでいる。(ワー クシート)	・今後の学習計画に沿って学 びたいことを書いている。 ・「ワークシート」	・評価規準(B基準)(評価方法)		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
◇相互評価をすることにより、相手に 伝わる交流ができるようにする。	◇お互いに伝え合うことにより、よ り明確に伝わる表現で書くことが できるようにする。	◇班で話し合う時間をとることによ り、情報の取捨選択ができるよう にする。	◇教科書P137の例を参考にする ことにより、マッピングできるよ うにする。	◇教科書P240を参考にすること により、用途によって辞書を使い分 けられるようにする。	◇教科書P199の問題を使うこと により、理解できるようにする。	◇教科書P199の問題を使うこと により、理解できるようにする。	◇小学校時に学習した内容を提示す ることにより、理解できるようにす る。	◇「簡単に例えている部分」を探すこ とにより、構成がわかるようにす る。	◇「筆者が伝えようとしている真実は 何か」と助言することにより、考え られるようにする。	◇接続語にも注意して読み取ること により、書けるようにする。	◇「簡単に例えている部分」を探すこ とにより、構成がわかるようにす る。	◇グループで相談することにより、身 に付けたい力を考えられるように する。	◇教科書P136～140を参考に するよう助言することにより、学習 計画を立てられるようにする。	◇支援	

プロセス (学習過程)

単元全体を三段階に分け、プロセスⅠ～Ⅲとして、「この段階では何を中心に学ぶのか」ということを明らかにします。

学習内容, 言語活動

各時間の中心となる学習内容を示します。このことにより、毎時間の学習活動の見通しをもつことができ、単元全体の流れが明確になります。指導事項を基にした言語活動を示しておいてもよいでしょう。

評価規準 (各時間で身に付けたい力)

各時間の評価のB基準と、評価方法を示します。「その時間にどのようなことができればよいか」ということを、具体的な文言で示し、明確にわかるようにします。

観点

各時間の評価の観点を示します。観点別評価のぶれや偏りを防ぎ、単元を通じた観点のバランスを見ます。

支援

評価規準を満たすための支援を示します。

主体的に学ぶ姿をめざして「学習計画」を活用する

生徒の学習計画＝主体的な学び

左の単元構想表を基にした学習計画表の例

プロセスⅢ 課題を調べ、レポートに書く					プロセスⅡ 説明文を読むことで文章構成や展開を学び、レポートに生かす					プロセスⅠ 見通しをもつ														
⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	教材									
P136～「調べたことを正確に伝えようーレポートにまとめるー」					P142, P240「漢字5」					P141, P197～「文法2」					教科書P128～『未来をひらく微生物』									
<ul style="list-style-type: none"> 全体での交流をし、振り返ろう。 交流してレポートを推敲しよう。 形式を整えてレポートにまとめよう。 全体の構成を考えて下書きをしよう。 					<ul style="list-style-type: none"> 課題を決め調べたことをマッピングしよう。 目的に合った国語辞典と漢和辞典、その他の辞書の活用の仕方を理解しよう。 連文節、並立の関係などについて知ろう。 主語・述語、修飾語などの復習をしよう。 					<ul style="list-style-type: none"> 結論を読み、筆者からのメッセージを受け止めよう。 本論をレポート形式にまとめよう。〈その二〉 本論をレポート形式にまとめよう。〈その一〉 本文を三つの段落に分け、題名を付けよう。 					<ul style="list-style-type: none"> これから十五時間の学習の見通しをもつ。 身に付けたい力を考えよう。 説明文を読もう。 					学習内容 教科書を用いて学習内容を確認しながら計画を立てることができるようにページ数も記入します。				
学習課題 各時間に学びたいことを学習者が考えられるよう、はじめに例を載せておきます。 「その時間にその学習内容を行うことで学びたいこと」 を書くよう指示します。これにより、主体的に学ぶ姿勢や意識を育成します。															身に付けたい力 指導者が設定した「身に付けたい力」の選択肢を、裏面に印刷しておきます。その中から、各時間に合うものを考え選びます。自分の考えを記入する欄と、全体での意見交流から深まった意見を書く欄を用意します。また、教科書の学習内容から、考えることもできます。									
「身に付けたい力」の選択肢例 a…見通しをもつ力 b…具体的にイメージできる力 c…(読) 文章の構成を読み取る力 d…(書) 情報を整理して書く力 e…(書) 根拠を明確にして書く力 f…(書) 文章を読み取り参考にする力 g…(書) 読みやすさやわかりやすさ文章を書く力 h…(読) 文章の構成を読み取る力 … 《以下省略》																								

プロセス (学習過程)
 単元構想を基にして、学習者にとってその段階の学習活動を理解しやすい文言に直したものを示します。

教材
 教科書を用いて学習内容を確認しながら計画を立てることができるようにページ数も記入します。

学習内容
 学習者にとって毎時間の学習内容を具体的にイメージできるような文言で示します。

学習計画を立てることを指導する時期
 中学での学習が始まったときや、学年ごとの年度当初には、学習計画について指導し、生徒が作成する時間を設定します。
 これを繰り返すことで、見通しをもつことの重要性を考えられるようにします。

後期の学習では…
 指導者が「学習計画表」を準備するのではなく、生徒自身が学習の計画を立てられるようになることが大切です。「計画表」という形でなくとも、下のノート例のように、「学習課題 (どのようなことを学ぶのか)」「身に付けたい力 (それによってどのような力を付けたいのか)」などを考えることができるようにしたいものです。

ノート例

単元5「未来をひらく微生物」 全十五時間
教材①未来をひらく微生物 ②調べたことを正確に伝えよう
学習課題①どのようなことを学ぶのか
①説明文の段落の役割を理解し、文章の構成を読み取りたい。
②構成を考え、調べたことが正確に伝わるレポートを書きたい。
身に付けたい力①どのような力を付けたいのか
①説明文の段落の内容を読み取る力
②調べたことを正確にわかりやすくまとめる力
…

言語力の育成に向けて

言語力とは
 言語力とは、「知識と経験、論理的思考、感性・情緒等を基盤として、自らの考えを深め、他者とコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力」※です。考えたことを他者と伝え合うためには、『話す力・聞く力』『書く力』『読む力』を伸ばしていくことが重要です。
 ※ 文部科学省「言語力育成方策について (報告書案)」より引用

見通しをもち学ぶ力と「学習計画」
 生徒が学習計画を立て、見通しをもって学ぶことで、学習内容と言語活動が明確に結び付き、主体的に学び、活用できる力が育ちます。こうした力は、言語力の育成につながります。

グループ学習の充実
 グループの学習では、日常的な言語活動を行う機会を多くもつこととなります。この充実により、言語力を伸ばすこととなります。



生徒の主体的な学びとグループ学習

生徒の主体的な学び

「少人数で自分の考えを話し合う」という活動は、発言する機会を全員がもつこととなります。**自分の考えを伝え合うことは、他の考えを理解することにつながります。**

このことは、主体的に学ぶ生徒を育成します。

グループ学習

単元の学習で、主体的な学びをするためには、自分だけの思いや考えにとどまらず、多様な考えを知ることによって、自らの考えを更に深めることが大切です。そこで、「グループ学習」という形態を授業の中に取り入れ、**交流する時間を設ける**必要があります。

また、単元や、1単位時間の中では、「課題を把握する」→「考えを形成する」→「意見を交流する」→「広げる・深める」というプロセスに沿って学ぶことが重要です。

「1単位時間」におけるプロセス（学習過程）の中でのグループ学習

課題を把握する ○○○

考えを形成する ○○○

意見を交流する ○○○

広げる・深める ○○○

一人一人が学習課題を把握します。その後、個々に自分の考えを練ります。考えを形成することにより、話し合いの際にも、他の意見を受け入れることができるようになります。

少人数（3～4名）で「考えを共有する場」として、「グループ学習」があります。**全員が参加する双方向性の話し合い**となるようにします。司会者、記録者、発表者などの役割分担により、目的に沿った話し合いができます。指導者は、支援の必要な生徒やグループに重点的に関わることができます。

全体で意見を交流し、はじめにもった考えを広げたり深めたりします。また、一人一人が考えをまとめます。

グループ学習における指導・支援のポイント

言語力を伸ばすグループ学習を行う際には、指導者の「グループ学習の構想」と「生徒への指示・発問」が重要です。

1. 「**何について学ぶのか**」という構想を明確に伝えます。
2. 課題を解決するための**活動内容、時間配分や役割分担**などを決定します。
3. **的確な指示・発問**をし、生徒一人一人が学習課題を解決できるようにします。

指導事項と言語活動とをつなげる発問とは…

例①：話すこと・聞くことーオ「相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。」

→「全員が意見を出し、自分の意見との違いや同じ点をはっきりさせた上で〇〇について話し合いましょう。」

例②：書くことーエ「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。」

→「書いた下書きを読み合い、語句や文が分かりにくいところを伝え合いましょう。その後、各自、その意見を基に推敲します。」

グループ学習の効果的な活用

- 「全体で学ぶ場面」と「少人数で話し合いながら学び合う場面」を使い分けます。
- 1単位時間において効果的なグループ学習になるように、タイムテーブルを組み立てます。
- 「全体に向けた指導・支援」と「個に応じた指導・支援」を工夫することで、生徒の学びを確かなものにするができます。



単元構想を支える言語活動、領域関連

「言語力向上」「主体的な学び」の手だてとなる言語活動

【話すこと・聞くこと】

・対話や討論など、話したり話し合ったりする言語活動

【書くこと】

・感じたことや考えたことなどを相手に伝える表現の仕方を学ぶ言語活動

【読むこと】

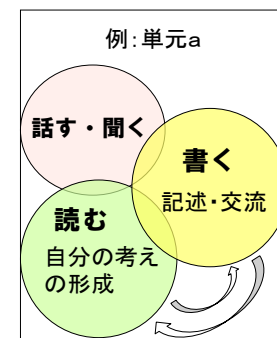
・文章を比較して読むことや、調べるために読むことなど、「何のために読むのか」という目的をもって読み進める言語活動

単元構想と3領域を関連させることとのつながり

単元を通じた学習の中で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を**関連させた指導を行う**ことが必要です。3領域を関連させることで、中心となる領域の指導事項とその達成につながる言語活動が明らかになり、主体的に考えることができるからです。

単元の中での領域関連

「**テキストを読んで考えたことを文章に書いて表現し、交流する**」という学習活動を行うことが言語力向上の鍵です。そこで、単元を通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を関連させて指導することを考える必要があります。



イメージ図

領域関連の練り方（例：「書くこと」⇔「読むこと」）

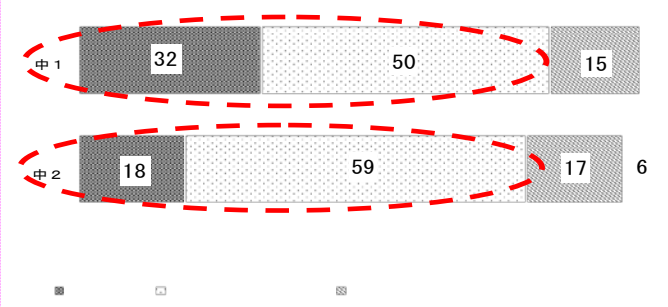
①「読むこと」…テキストから情報を得て、どのように活用するかを考える。

②「書くこと」…多様な表現様式を学ぶ。

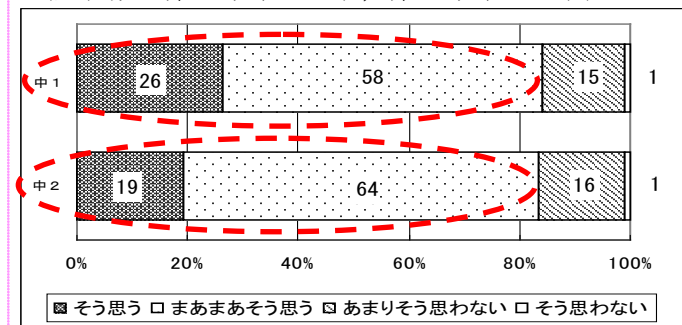
（指導の際、単元を生かし、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」という指導事項の流れが大切になります）

単元構想を練った指導を行った成果

あなたは、学習計画や学習課題を考えることで、見通しをもって学習することができたと思いますか。
（回答数：第1学年114名、第2学年105名）



この授業で、「身に付けたい力」を意識して学習することができたと思いますか。
（回答数：第1学年114名、第2学年105名）



生徒の感想（一部抜粋）

- ・この一時間で絶対にこれができるようになるかと目標を立てられた。
 - ・次の課題にどのようにして取り組んだらよいのかということを考えることができた。
 - ・普段は言われたことをやっているだけだったけれど、計画を立てることで、何をしてどんな力を付けたいかを意識できた。
 - ・先の見通しがもてたので、学習しやすかった。
- …… など